

- 環境
- 国際理解
- 地域文化
- 気候変動
- 生物多様性
- 防災
- エネルギー
- その他

名古屋市立山田高等学校



創立：1978年
 住所：〒452-0817 名古屋市西区二方町19-1
 連絡先：TEL 052-501-7800 FAX 052-504-2968
 学級数：21 生徒数：827人
 H P : <https://www.nagoya-c.ed.jp/school/yamada-h/>

「なごや発「地球人」の育成をめざして

はじめに

「命の尊厳に思いを馳せることができる人間」「自他の心の痛みを理解でき安定した情緒を持つ人間」「身の回りの自然環境がいかに貴重なものであるかを知る人間」このような人間の育成を目指し、「命・心・環境」を大切に

にする「人間教育」の実践に取り組み、平成24年12月に名古屋市立高校ではじめて「ユネスコスクール」に認定された。その後も活動の幅を広げ、「防災」「国際理解」の実践活動にも取り組んでいる。

実践内容①

「AEDトレーニングなど人命救助に関わる体験活動」



ねらい：生徒が命の大切さを感じるとともに、救急救命法の基礎を習得できるようすること。

「人間教育」の実践が継続的に行われるように、できるだけ教育課程の中に位置づけている。2年生の「総合的な探究の時間」をユネスコタイムと位置づけ、「命・心・環境」をテーマとするさまざまな探究活動を「地理歴史・公民科」「理科」「保健体育科」の教員が担当している。生徒は3つのグループに分かれて1週間ごとに各科の担当する内容を順番に受講している。

「命」に関わる体験活動として、保健体育科教員が中心となって「心肺蘇生法とAED」に関わる講座を開催している。

この講座のために教員は、応急手当普及員の資格を取り、定期的に更新しながら生徒を指導している。生徒はグループ毎に分かれて心肺蘇生のトレーニング用的人形とAEDトレーナーを使い実習を行う。1学期は主に傷病者発見から胸骨圧迫と人工呼吸について学び、2学期はAEDについて、3学期は年間のまとめと傷病者の運搬法について学んでいる。認定試験に無事合格した生徒には普通救命講習修了証が渡される。

また、1年生の「家庭総合」の時間を活用して「赤ちゃん交流授業」を実施している。これは赤ちゃんの保護者から、出産や子育ての喜びや苦勞を聞き、実際に赤ちゃんとおふれあう活動を通して命の素晴らしさを体感している。



人形とAEDトレーナーを使った実習

成果

救急救命の基礎を1年間かけて学ぶことで、AED機器の使用にも臆することなく、居合わせた人々と力を合わせて緊急時に対処する力を育むことができています。本校近くの大型商業施設で倒れた方がいたときに、偶然通りかかった本校生徒が迅速に対応して救助に当たったということがあった。

実践内容②

「防災委員会活動を軸とした防災活動の取り組み」

ねらい：身近に起こりうる自然災害について理解し、自助共助の意識を高めること。

1年生各クラスから2名の防災委員を選出し、委員会として年2回の「防災新聞」を発行している。1学期に名古屋大学減災館や名古屋市港防災センターなどの施設見学を行い、学んだことを全校生徒向けに新聞にまとめて発行している。さらに2学期には名古屋市消防局の協力を得て「起震車体験」や「煙道体験」実習を1年生全員で行っている。

また、入学時に非常食を購入して学校に保管し、卒業時に返却する取組を行っているが、その試食会を実施して非常食の新規購入品の選定も行っている。これらの活動が、2年生の修学旅行における神戸市での防災学習「人と防災未来センター」訪問につながっている。



起震車体験と地震発生時の対応

成果

平成12年の東海豪雨では新川が決壊して校舎が浸水した経験があり、通学地域が広い本校では自然災害の際に帰宅困難者が多数出る可能性が高いため、水害や地震に対する備えについて関心が高まっている。

実践内容③

「伊勢湾に流れ込む「新川」水質検査の取り組み」

ねらい：水質検査を通して環境や川の歴史と人間生活などとの関連について考えること。

「新川」は、江戸時代に開削された庄内川水系の人工河川で、戦前から交通の便もよいため紡績工場や染色工場などの繊維工業が発達し、高度成長期には住宅地域にもなっていたため、工場排水や生活排水で相当汚染されていた。近年は、繊維工業関連の工場が無くなり、下水道の整備も進んだため汚染も減少している。

2年生の「総合的な探究の時間」で理科教員の指導の

もと、バケツで川の水を汲み、試薬を用いてpH値を調べ、記録する活動を継続している。このデータをもとに経年変化を研究し、毎年3学期に名古屋市科学館で開催される「高校生科学の祭典」で発表している。



学校北側を流れる新川水質検査の様子

成果

本校は「新川」堤防沿いに立地しており、その堤防は学校風景の一部となっている。その川の水はどこからきてどこへ流れていくのかという素朴な問いから始まり、生態系や川の歴史、人間生活との関連まで考察することができる。

おわりに

本校の一連の活動は他にも、1年生対象の「性講話」や近隣の特別養護老人ホームとの交流、生徒・保護者・教職員が地域清掃活動を行う「若竹クリーンプロジェクト」、オーストラリアの姉妹校からのホームステイ受け入れなど多岐にわたっている。今後は、「ユネスコスクール委員会」

が中心となり、SDGsの観点をより多く取り入れた改善を進めることが課題となっている。時代と向き合い、新たな時代に生徒がより一層活躍できることを願いつつ取組を継続していきたい。

